

後期学校関係者評価考察

文責 教頭 笹本 信仁

はじめに

本校では、これまで長年にわたり【やる気・元気・根気・勇気・思いやり】の「五本の木」が校訓として受け継がれてきている。この校訓を受けて、「学びを深め、豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成」を令和4年度も学校教育目標に掲げ、学校長をリーダーに全職員が一丸となって児童の育成に携わっている。また、白根東小学校の目指す児童像は、「情報や考えなどを的確に理解し、判断の根拠や理由を明確に示しながら、自分の考えを述べることができる児童」である。さらに小中一貫校（白根巨摩中学区）目指す児童生徒像「思いやり、創造力、すこやか体を持ち、未来を担う白根こまっ子」も念頭に入れ、これらの目標を実現するために、教職員一人ひとりが日々の教育活動に取り組んでいる。

学校教育目標の達成や目指す児童像を目指していくためには、教職員の力だけでは大きな成果には向かっていけない。今回行われた学校評価（教職員・児童・保護者）の結果を真摯に分析し、その改善点を明確にするとともに、保護者や地域と連携しながら日々取り組んでいかなければならないと考える。

「A」（あてはまる）「B」（どちらかというにあてはまる）を肯定的意見、「C」（どちらかというにあてはまらない）「D」（あてはまらない）を否定的意見ととらえる。自己評価（教職員）はすべての項目について肯定的意見が100%となり、児童アンケートは15項目中9項目が90%以上、4項目で85%以上であった。2項目において、80%弱という結果であった。さらに保護者アンケートにおいても16項目中、15項目で90%を超えており、全体的にみておおむね満足できる状態であるといえる。ここ数年間の集計結果は多少の数値の変動はあるもののほぼ同じような結果になっている。2020年から続いている新型コロナウイルス感染症は収束の兆しも見えず、感染予防対策は未だに教育活動に影響を与えている。一方、昨年度からスタートしたGIGAスクール構想においては、授業での活用をはじめ、家庭での活用（オンライン授業等）も始まり、学校生活はこの一年で大きく様変わりした。時代の変化に柔軟に対応しながら、さらなる高みを目指した取り組みを構築し、充実した教育活動を進めていきたいと考える。

<考察の視点>

令和3年1月に中央教育審議会から、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」が出された。また、令和2年度に小学校では学習指導要領が改訂となった。「社会に開かれた教育課程」の編成・実施、その基盤となる「カリキュラム・マネジメント（教育課程の編成）」、「主体的・対話的で深い学び」を通して、子供たちにこれからの持続可能な社会をたくましく生き抜く力を育てていく具体的な取

り組みが、学校教育には期待される。そのため学校・家庭・地域社会が協力し連携していかなければならない。それらの目指す方向が一致してこそ、学校はよい方向に進み、同時に地域にもよい影響を与える。未来の地域を支える子供たちを、地域とともに育てていくという考えが一層重要になってくる。

<全体的傾向>

自己評価（教職員）はすべての項目について肯定的意見が100%を超え、保護者アンケートでもすべての項目で90%を超えている。また、児童アンケートの肯定的評価は2つの項目（④⑪）以外は85%を超えている。全体的に見ておおむね満足できる状態ではあるが、結果から見えてくる状況を考察し、今後の教育活動に生かしていくことがさらなる高みを目指すためには大変重要なことである。

<視点①>【学習面に関わって】

自己評価（教職員）⑥「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている。」

児童評価⑧「授業はわかりますか。」

保護者評価④「お子さんは、授業の内容がわかっていると思いますか。」

保護者評価⑦「学校は、基礎学力定着のために指導をしていると思いますか。」

自己評価⑥の肯定的評価は100%（A:95% B:5%）でA評価も高い。児童評価⑧も肯定的評価が98%（A:70% B:28%）と高いものとなっている。保護者評価④は肯定的評価が92%（A:38% B:54%）と高いものの、A評価が低いことは気になる。C評価も7%ある。保護者評価⑦も肯定的評価は96%（A:53% B:43%）と高いものの、B評価が43%と高いことも気になる。自己評価・児童評価と保護者評価の間に認識の違いがあることは注視していかなければならない。児童には「分かる喜び」を味わわせながら、学力を伸ばしていけるよう引き続き取り組んでいく必要がある。

また、児童評価⑩「授業（勉強）でわからない時には、先生に聞いていますか。」の肯定的評価は93%（A:73% B:20%） ⑪「授業中に、手をあげたり自分の考えを言ったりしていますか。」の肯定的評価は、78%（A:48% B:30%）である。分からないところは先生に聞くことができていることは評価できる。自分の考えを積極的に発表することも必要ではあるが、大切なことは自分の考えを持って授業に主体的に参加することである。分からないことを聞いているという結果を踏まえると、学習に対して前向きに取り組んでいる児童が多いことが分かる。しかしながら、自らの意見を発信することが苦手である児童が若干多いという現実を否めない。授業での指導方法の工夫や児童自身が安心して考えを発表できる環境づくりに、今後も力を入れていく必要がある。

保護者評価⑤「お子さんは、家庭で勉強する習慣がありますか」については、肯定的評価は86%（A:50 B:36）とであが、C評価が13%となっているのが気になる。家庭学習の定着はとても大事なことであると考えている。学校は「家庭学習強化週間」の取組を行っている。ご家庭の協力を得る中で、家庭学習の定着をさらに高めていきたい。

<視点②>【学校生活に関わって】

校訓「やる気」「元気」「根気」「勇気」「思いやり」に関わっての回答は、①～⑤のすべての項目において前期を上回っている。特に「やる気」においては10%増えている。日々の授業実践や様々な取組等を行う中での成果であると考ええる。児童が生き生きと学校生活を今後も送れるよう引き続き丁寧な教育活動を行っていききたい。

児童評価⑥「学校は楽しいですか。」について、肯定的評価は92%であるが、CとDを合わせた回答が8%となっている。コロナ禍の中で感染症防止対策をとりながら徐々に学校行事も開催されてはいるが、制限されることもまだまだ多い状況であることも影響していると思われる。子供たちにとって学校が楽しいと感じることは学校生活を送る中で最も重要である。一人ひとりに寄り添った教育を行っていくことが今後も求められる。同時に、自己肯定感や自己有用感が高まるような集団づくりに全校で取り組んでいくことも大切である。

児童に「学校で一番楽しみなこと」について記述式のアンケートをとったところ、休み時間や友だちとのおしゃべりなどが多く書かれていた。続いて授業の教科等の回答が多かった。数値では測れない児童の違った一面を垣間見る手掛かりになるのではないだろうか。

<視点③>【家庭での様子に関わって】

児童評価⑬「学校での様子を、家の人に話していますか。」

保護者評価①「お子さんと、学校の様子などを話していますか。」

児童評価⑬の肯定的評価は88%（A:65 B:23）であるが、否定的評価12%（C:7 D:5）は気になる数字である。また、保護者評価①も肯定的評価は98%（A:71 B:25）と高いものの、B評価は25%となっている。保護者評価が比較的高いのに比べ、児童評価が低いことも気になる。家庭でのコミュニケーションを通して子どものことを理解し、学校の様子を知ってもらったり、学校の教育活動への理解が進んだりすることで、学校との連携を深めていくためには欠かせないことであるといえる。

<視点④>【学校と保護者・地域との連携に関わって】

自己評価（教職員）⑬「保護者・地域（及び関係機関）との連携・協力を努めていますか。」

保護者評価⑭「学校は、保護者や地域と連携・協力し、より良い教育活動を進めようとしていますか。」

自己評価⑬では肯定的評価は100%（A:67 B:33）と高いが、前期と比べてA評価が若干下がっている。保護者評価⑭も肯定的評価は96%（A:52 B:44）と高いが、A評価が前年度より若干下がっている。コロナ禍の中で、学校へ来る機会が減り、具体的な場面が少なかったという現実も影響しているかもしれない。決して低い数値ではないが、結果を真摯に受け止めていきたい。「教育活動」は学校だけで完結できるものではなく、「保護者や地域」の協力なくしては成り立たない。今後も、連携協力を積極的に推し進めていけるような体制を考えていきたい。

<視点⑤>【学校の指導に関わって】

保護者評価⑨「学校は、子供の困ったことや悩みなどに対応していると思いますか。」

保護者評価⑩「学校は、仲間はずれ・いじめ等を認めない指導をしていると思いますか。」

保護者評価⑨・⑩ともに肯定的評価は93%（⑨A:49 B:44 ⑩A:48 B:45）になっており、概ね良い評価だと言える。A評価が前年度より若干下がっていることは気になるところではある。

児童一人ひとりにしっかり目を向け、寄り添いながら保護者からも信頼されるよう教育活動を進めていく努力を今後さらに進めていきたい。日々の指導等をはじめ、様々な職員研修等を教育活動に生かしていきたいと考えている。

また、保護者評価⑫の「学校は、保護者の相談に、ていねいに対応していると思いますか。」については、肯定的評価は97%（A:64 B:33）であった。⑨の項目と同様に、子供にも保護者にも相談されることに対して、子供や保護者の話をじっくりと聞き、一緒に考え対応をしていきたい。また、担任が一人ではなく、状況によっては学校体制で対応していくことが大切である。

<視点⑥>【小中一貫教育について】

自己評価（教職員）⑫「小中一貫校として目指す児童生徒像を理解し、そのための取組や教育課を意識して行っている。

保護者評価⑮「小中一貫校として、3校（白根巨摩中・白根飯野小・白根東小）が連携して行事や教科指導を行っていることを理解している。

今年度から「小中一貫校 南アルプス市立白根東小学校」として正式に出発した。急激なスターではなく徐々に3校の連携体制についての研究を深めていきたいと考えている。これまでの連携をもとに、今年度はさらに踏み込んだ取組も行った。具体的には、白根東小と白根飯野小の6年生が参加した白根巨摩中学校との合唱交流会や中学生が小学校にきてくれた「あいさつ運動」などがある。その他、3校の教職員間の授業参観や教育課程の見直し等があげられる。

自己評価のA評価は45%、保護者評価のA評価は43%となっている。コロナ禍のため、まだまだ難しい面もあるが、今後のさらなる取組と保護者への周知などを含め、着実に進めていきたい。

<IVまとめ>

新型コロナウイルスの感染拡大は、未だに収束の兆しも見えず、第9波の声も聞こえてきている。制約のある中での生活は、子どもたちにも大きく影響している。3年生以下の児童は今までの小学校の生活は知らない状況である。しかしながら泣き言ばかり言っていられない。この状況下でも子どもたちは成長を続けているのだから、この学校評価を参考に高みを目指して努力をしていかなければならない。

コロナのマイナス面ばかりを見ても仕方がない。臨時休業等を機に一人一台端末が導入されるなど、学習スタイルもよい意味で変わった面もある。オンライン授業等も始まり、中教審からは『令

和の日本型学校教育』(中間まとめ)が示され、「個別最適な学び」と「協同的な学び」が取り上げられた。それぞれの学びの往還が大事と示されている。

『不易と流行』。教育には、どんなに社会が変化しようとも、時代を超えて価値のあるものがある。一方で、時代の変化とともに変えていく必要があるものに柔軟に対応していくことも求められている。どれほど時代が変わろうと、どんなに新しい教育理論や指導法が展開されたとしても、私たちの願いはぶれることなく、目の前にいる子どもたちの健全な育成である。学校長をリーダーに「チーム東小」として全職員が力を合わせ、常に同じ方向を向き、日々教育活動に臨んでいる。

また、「こどもたちのため」という思いは、保護者も地域も全く同じである。自己評価・児童アンケート・保護者アンケートにおいて、いずれもおおむね満足できる状態ではあるが、「地域の強い思い」「地域の教育力」を大事にし、お互いにコミュニケーションを図りながら連携を図っていくことで本校の学校教育目標の実現につながっていくと確信している。「児童が通いたくなる白根東小学校」、「保護者が通わせたい白根東小学校」、そして、「教職員が勤務したい白根東小学校」となるように、学校・保護者・地域のベクトルの向きを同じくして取り組んでいくことが、一番大事なことである。